

岩手県沿岸におけるクラゲの出現状況調査結果速報(第1号)

岩手県水産技術センター

3 月下旬頃から、本県南部沿岸でクラゲの出現に関する情報が寄せられており、定置網やイサダ漁業に影響が生じています。4 月に入ってもクラゲの出現情報は継続して寄せられており、定置網では操業ができないほど入網している模様です。

調査船「北上丸」により、4 月 7 日に沿岸域でのプランクトン・仔稚魚採集調査を利用して釜石市以南の海域でクラゲ分布調査を行いましたので、その結果をお知らせします。

【調査結果】

釜石湾から大船渡湾にかけて、海岸線に沿って北上丸で目視観察と魚群探知機によるクラゲの分布状況を調べました(図 1)。

各調査地点の表面水温は大船渡湾を除いて 5～6℃で、10m 以深は 50m 深まで全地点が 4～5℃でした(図 2)。

本調査では、唐丹湾(1)、越喜来湾(2)、綾里湾(3)でクラゲの濃密な群が確認されました。分布数の多い海域は湾口部の調査点である(1)、(2)、(3)-①で、沖合の調査点である(3)-②、③では急激にクラゲの数が減少していました。また、大船渡湾付近(4)では分布が認められませんでした。そのうち、濃密な分布が認められた調査点(3)-①で稚魚ネット(5 分曳き)を用いて推定した分布密度は $1,000\text{m}^3$ (10m 四方)あたり 20 個体以上と推定されました。

採集したところ、本種はミズクラゲに近い種類で、主に北海道から樺太周辺に分布している亜寒帯性のキタミズクラゲと同定されました(図 3)。

【その他情報】

当センターに寄せられた情報によると、広田半島に敷設されている定置網でも 4 月 7 日現在極めて多くのクラゲが入網し、操業に支障をきたしているとのことです(図 4)。

本県沿岸域は、5℃以下の親潮第一分枝に広く覆われており、当センターで行われた 3 月の海洋観測結果によると、本県沿岸域は親潮第一分枝の接岸によって、平年よりも 2～3℃低めで推移しています。このことから、現在本県周辺に出現しているキタミズクラゲは、親潮第一分枝の南下によって北方海域から輸送されたと考えられます。

当センターでは、引き続きクラゲの出現状況の把握と情報提供に努めてまいりますので、クラゲに関する情報をお知らせ下さいますようお願い申し上げます。

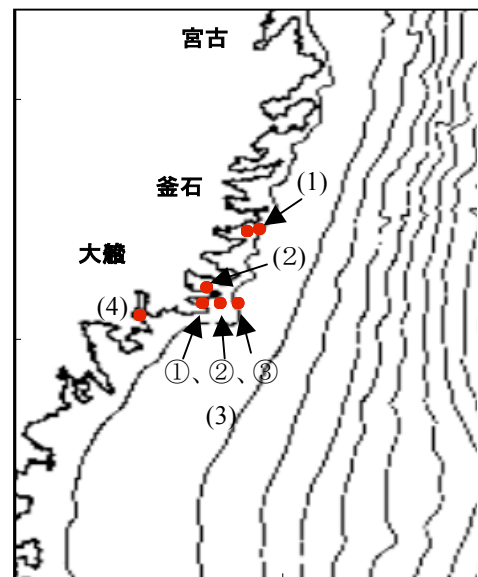


図 1 北上丸による 4 月 7 日の調査地点

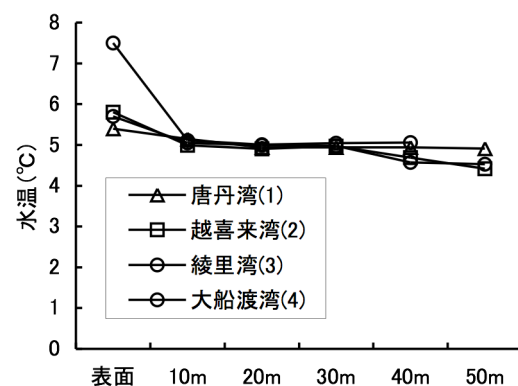


図 2 調査地点における水温分布

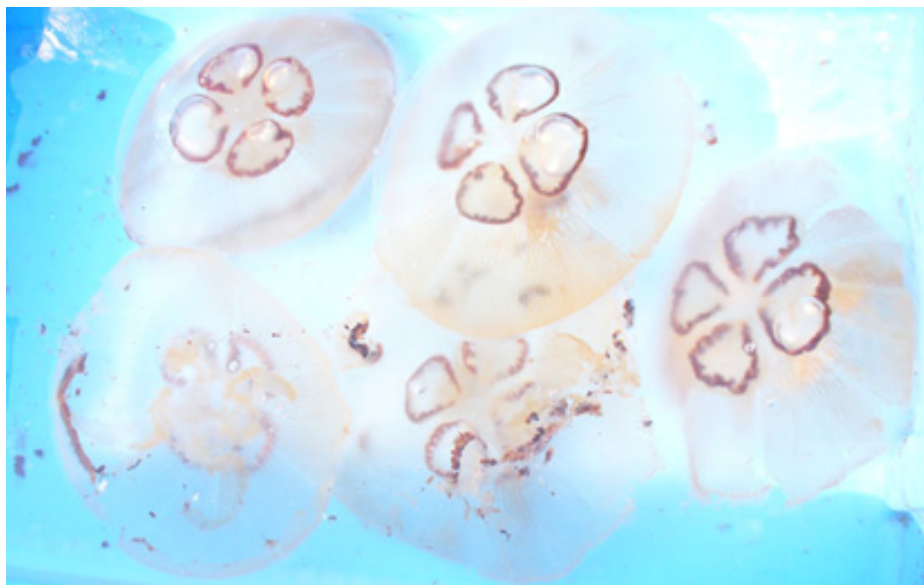


図 3 キタミズクラゲ(傘の縁辺に赤褐色の縁取りがあることが特徴)



図 5 定置網に入網したキタミズクラゲ

お問い合わせ先

漁業資源部 (担当:後藤)

電話 0193-26-7915 / FAX0193-26-7920

E-mail: CE0012@pref.iwate.jp

ホームページ: <http://pref.iwate.jp/~hp5507>